

様式1に基づく各学年の課題と授業改善策

	国語		算数		理科	
	学年の課題	東久留米スタンダード(学習指導編)に基づく授業改善策	学年の課題	東久留米スタンダード(学習指導編)に基づく授業改善策	学年の課題	東久留米スタンダード(学習指導編)に基づく授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施したワークテストにおいて、学習した平仮名を覚え正確に書いたり読んだりすることに課題が見られる。 ・日常の学習の様子から、文章を正しく音読したり正しく発音したりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・字形と具体的事物とを結び付けるなどの指導を工夫する。 ・促音では、手拍子や動作を加え、音の長さや体で感じさせる。拗音では、口の形を見せ、発音の仕方を具体的に指導する。助詞では、それぞれの文法的な役割を明確に伝える。 ・役割音読や追い読みなど多様な形態での音読活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施したワークテストにおいて、式を立てて答えを出すことはできるが、答えを記述する際に、正しい単位をつけて解答することに課題が見られる。 ・1学期に実施したワークテストにおいて、図形を構成する要素に着目して、図形を形成することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての単元の分掌問題において、単位の重要性を児童に伝え、確実に単位を記述させるようにする。 ・展開では、ノートに絵や図で考えを表し、ペアで説明し合う活動を積極的に行う。 ・図形の学習では、形づくりなどの操作的な活動を重視する。自分の考えを言葉で説明し合う活動を取り入れる。また、ICT等を活用して、視覚的に理解を深める。 		

小学校【様式2】課題と授業改善策

<p>4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施したワークテストにおいて、新出漢字を正しく書いたり使ったりすること、言葉の意味や文法を理解して文章を書くことに課題が見られる。 ・1学期に実施したワークテストにおいて、新出漢字や言葉の使い方に関する事項に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力を高めるため、新出漢字を繰り返し練習したり、学習の中で重要な語句を確認して使ったりする。 ・文章を読んだり書いたりする際、既習の漢字の音読み訓読みについて繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の図形に関するワークテストにおいては、角の意味や測定の方法を理解し、角を測ったり作ったりすることに課題が見られる。また、必要な条件を理解して面積を求める方法を考え、説明することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての知識・技能の確実な定着を図るための基礎・基本を身に付けさせるため、復習プリントや東京ベーシックドリルを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に作成した観察カードから、自然の生物について、季節による変化を捉え、観察して気付いたことを表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を明確にしたり、タブレットで写真や動画を撮ったりすることで根拠をより明確にする。
<p>5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施したワークテストにおいて、新出漢字や言葉の使い方に関する事項に課題が見られる。 ・1学期に実施したワークテストにおいて、新出漢字や言葉の使い方に関する事項に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストやワークテストを活用し、全員の習熟度をこまめに把握し、必要に応じて復習の機会を設ける。 ・文章を読んだり書いたりする際、既習の漢字の音読み訓読みについて繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度東久留米市立学校学習定着度調査において図形に関して、必要な条件を理解して正しい作図方法を説明することに課題が見られる。また、必要な条件を理解して面積を求める方法を考え、説明することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもって説明し合い、根拠となる考えを深められる話し合い活動を授業内で取り入れ、図形を構成する要素に着目させる。具体的には個人で思考した後、小グループで考えを説明し合い、より良い方法を導いていけるようにする。 ・体積や面積の計算による求め方を考察す 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に実施したワークテストにおいて生命を柱とする領域で、観察して気付いたことを表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の視点を明確にしたり、一人1台端末を用いて写真や動画を撮ったりすることで根拠を示しながら表現できるようにする。

小学校【様式2】課題と授業改善策

				る力を身に付けさせるため、復習プリントや東京ベーシックドリルを活用する。		
6年	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度全国学力・学習状況調査において、当該学年に配当されている漢字を覚えること、音読みや訓読みを使い分けることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中でも使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが重要になるため、学習の中で新出漢字や語句を確認し、使う活動を行う。また、漢字の学習では、用例や同じ読みの漢字の使い分けを意識的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度全国学力・学習状況調査では図形を構成する要素に着目して、面積、体積の計算による求め方を考察することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形についての知識・技能の確実な定着を図るため、算数としての系統性を重視しつつ、学年間で指導内容の一部を重複させる。 学習内容をなだらかに発展させたり、学び直しの機会を設けたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度全国学力・学習状況調査では生命を柱とする領域で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の予想をする段階において既習事項を押さえる時間を確保する。また、児童同士の関わりや意見の交換ができる機会や場を授業の中で数多く設定する。